

## 2. 配置計画、造成計画、構造計画で重視する配慮事項

現奏楽堂・将来のコンサートホールとの連携、  
美術学部の学生や県民との交流を図ります

- 楽器の移動がしやすく、奏楽堂や既存音楽学部の施設、将来のコンサートホールに段差なくアクセスできる配置。
- 構内道路から直接楽器の搬出入が可能な「合奏棟」。
- 「音とアートの広場」：講義棟広場から回遊できるレッスン棟の屋根は、学生同士や県民との交流の場を創造。
- 階段状の高床式構造：造成が少なくなるよう地形勾配に合わせ、斜面地の湿気から楽器を保護。

## 3. 施設の機能として重視する配慮事項

